

サービスラーニングを通して感じた思い

社会福祉学部社会福祉学科 2年 水野 恵実

活動先：NPO 法人 ゆいの会

ゼミ：松下 典子先生

私は、ゆいの会でのサービスラーニングを通して、屋根の下でのつながりだけでなく、地域の方々とのつながりを目で見て感じることでできた活動であった。



今回の実習では、サロンの企画、ものづくりを通して障害のある方とふれあい、手作りのよさを肌で感じ、そしてゆいの会と周辺地域の方々とのつながりを目で見ることができた。また、活動を通して私たちが感じたことができるだけ素直に表現し、ゆいの会らしさを知っていただければと思います。一部ではあるがホームページの作成という広報活動にも関わらせていただいた。普段経験することのできない、多岐に亘った活動であったため、分からないことだらけで、戸惑うこともたくさんあった。しかし、今まで苦手意識が強かった一日の目標を立てること、また一日の活動を振り返ることも手を抜くことなく取り組むことができたため、積極的に、今という時間を楽しみ、そしてすべてを吸収する意識で取り組むことができた。

何より 6 日間の活動を通して、特に強く感じたことは、素直に自分自身のことをもっと知りたい、手作りのものやものづくりをもっと地域の中で身近に感じられるようになりたいという希望をもち、そして地域とのつながりが、一人ひとりが生活していく上での強みになりうるということを確認することができた活動であった。



私はもともと人の話を聞いたり、会話をすることが好きだったため、今回の実習でも自分から利用者の方々やスタッフの方ともたくさんお話しを聞かせていただき、場合によってはお話しさせていただいたことも多くあった。しかし、これまで私が参画した社会活動や地域活動で出会った方々との会話とは少し異なった点があった。それは、ものづくりを通しての会話であったという点である。

母は服をデザインし、デザインしたものを形にするものづくりに関わる仕事に就いている。「手作り」「ものづくり」が私にとって身近にあったはずであるにも関わらず、私はこれまでの 19 年間、ものづくりに関して、全く興味をもったことがなかった。私は今回、ゆいの会のふれあい活動である、さをり織りと陶芸教室に参加させていただいた。先生や利用者の方から一から教わり、なんとか作品にしていく。そんな中、利用者の方々もそれぞれが夢中になっていきいきとした表情をされながら思い思いの作品を作っていた。ゆいの会の空間は、「あなたのここ素敵ね!」「こうしたらうまくいくかもよ!」という互いに褒め合い、助け合う言葉が飛び交い、次第にたわいもない世間話で盛り上がっていった。気づくと私も作品に思いを込めつつ、何十年も先輩である利用者の方々と一緒に話しの輪に加わっていた。

初めて出会った方々がほとんどであったが、ものづくりを通しての人との交流は、私にとってとても新鮮であった。何より、わたしは純粋に世界でたった一つの作品を作ること



に熱中していた。私は手作りの温かみや、ものづくりを通して自分らしさを表現できるよきに初めて気づいたことで、こんなこともすきなんだという新たな自分を知るきっかけとなった。そして、楽しむチャンスを自分で削ることもなく、もっといろいろな自分を知り、自分らしさを表現することにチャレンジしていきたいと思った。

さらに感じたことは、ここが拠点となって地域に住む人と人がつながる場であるということだった。集い、交流する場は地域住民にとってとても心強い居場所になっていたように感じた。

人と人とのつながりや手作りに込めた思いは、ゆいサロンの昼食や配食サービスのお弁当にも生かされていた。最近の施設の配食サービスは、大量に作り利用者にとってお手頃な値段で提供しているところも少なくない。しかし、ゆいの会では少し値段は高くてもそれでも手作りにこだわり続けていた。地域で採れた新鮮な野菜を直接持ってくる人。それらを使って、A4 ノートに書かれた手作りの分厚いレシピを見て、色彩と味と利用者の体調に気を付けながら味を確認しながら、思いを込めて調理をする人。お一人おひとりの食事にはたくさんの人の思いが込められていた。スタッフの方と一緒に弁当を届けに行かせていただいたが、直接手渡ししたときの配食サービスを利用されている方々の笑顔は忘れることができない。自らの生活の中で、誰かとつながっているということは困ったとき、苦しいときに話を聞いてもらえる人がいるということ。そんな方々は力強く生きているようだった。

日常生活には、安く手に入る既成品で溢れていて、手作りのものに触れたり感じたり、ものづくりを経験する機会がほとんどない。きっと触れたことがないから魅力に気づくことがないのだと思う。ゆいの会のように、地域でものづくりを通してつながることのできるような空間が、今の社会にもっとあったらいいなと思う。私たち若い世代にとっては、手作り感に触れることはあまりないように思う。服はもちろん、食事もそうだ。手作りにこだわる姿勢、もっと良くしようという姿勢は代表の声から感じ取ることができた。なにか新しいことをやるのに踏み出せないとき、「でもさ、手作りだからゆいの会なんじゃないかな？そういうことってやってみなきゃわからない。新しいことをやるってそういうこと。ある程度の覚悟も必要。できなきゃそこからまた考えよう」。どんなことをするにも、この気持ちは大切にしていきたい。この気持ちを忘れなければ、どんなことにも挑戦できるような気がした。



お宅まで
配送
まごころ込
めて調理

新鮮な材料

ゆいの会は、また来てれば会えて、互いに認め合い、提案し合い、支え合える場所。生きている証が残せる場所。自分らしさを表現できる場所。“こんな場所があったらいいな”が溢れる、そんな場所であった。